

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 文化学園長野中学・高等学校

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒380-0915
長野県長野市上千田 141

E-mail gn-nagano@gakuen-nagano.ac.jp

Website bgh.gakuen-nagano.ac.jp

幼児児童生徒数 男子 117名 女子 425名 合計 542名
幼児・児童・生徒の年齢 12歳～18歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「Learning to be：多様性の時代を協調して生きることのできる国際人の育成目指して」を活動テーマとし、ESDを「現代社会の課題を自分事として、身近な暮らしのなかで、『新たな価値観』や『行動』を生み出すこと」と捉え、ESDの実践を通して、問題に気づき、それを解決していくための手立てを考え、工夫する力や、チームでものを考えるために創造的なコミュニケーションを図る力の育成を目標とした。

具体的には、

- (1) 異文化理解プロジェクト
- (2) 環境教育・ボランティア教育プロジェクト
- (3) 地球規模の諸問題解決方策プロジェクト

を柱に、

- ① 国際理解学習に係わる活動
- ② 環境学習に係わる学習
- ③ ボランティア活動
- ④ 地球規模の諸問題解決方策に係わる学習を行った。

①国際理解学習に係わる活動

<海外活動>

- (a) オーストラリア修学旅行（高校2年 11月）
- (b) カナダ修学旅行（中学3年 10月）
- (c) カナダ語学研修（中学生高校生の希望者 7月）

<国内活動>

- (a) イングリッシュ・キャンプ（中学1年2年全員 8月）
- (b) インターアクト部「国際交流会」（インターアクト部部員 4, 10月）
- (c) 長野マラソン参加外国選手との交流会（全校生徒の希望者 4月）
- (d) American University of Central Asiaとキルギス第43職業訓練校とビデオレター交流（高校1年 9月～）
- (e) ワールドフェスタ参加（中学生全員 11月）
- (f) 郷土料理保存会「ちょうまの会」との交流（中学1年生全員参加 10月）
- (g) 仏ブレーズ・パスカル大学・教育大学院 Didier Jourdan 教授によるESD講演（中高一貫生 11月）

②環境学習に係わる学習

<全校生徒による活動>

- (a) 学校周辺地域の環境保全（10月）
- (b) Kids' ISO14000への参加（中学生）
- (c) 長野環境標語大会（中学生）

③ボランティア活動

- (a) 長野車いすマラソン大会補助員参加（4月）
- (b) 生徒会のボランティア団体との連携活動
 - ア) ソロプチミストグループとの地域清掃活動（5, 10月）
 - イ) ソロプチミストグループとの「環境フェア」参加（9月）
- (c) インターアクト部活動
 - ア) 各種募金活動（4, 10月）
 - イ) 社会福祉施設訪問支援（8, 10, 11月）
 - ウ) 東北被災地支援活動（5月～8月）
- (d) 「届けよう服のチカラプロジェクト」（9月～11月）

④地球規模の諸問題解決方策に係わる学習

- (a) 外務省主催 第2回「国連壁新聞」全国大会（中学生徒会執行部 10月）
- (b) 信州グローバルセミナー参加（中学生高校生の希望者 12月）
- (c) 信州ESDコンソーシアム成果発表&交流会参加（中学高校代表者 2月）
- (d) 社会科授業での啓発（中3 社会科公民的分野 高1政経）
 - ①地球環境、地域紛争等を学び、地球規模の諸問題認識とその解決方策の探求力を育成
- (e) 国際デーの設定（全校生 総合的な学習の時間）
 - 上記①を基に、プレゼン等を通じて課題解決力を育成
- (f) 国際月間（中学生徒会各委員会 9月）
 - ①SDGs 17の目標から、各委員達が調べたいテーマを選び、協働的に探究し合いながら、全校の前でプレゼンすることを通して課題解決力を育成
 - ②Q&A Book作成。全校で更に問題を探る
- (g) 第9回ユネスコスクール全国大会への参加（国際理解教育委員長 12月）

①国際理解学習に係わる活動



信州大学留学生とユネスココーナー



長野マラソン海外招待選手と交流会



イングリッシュキャンプ



カナダの町でインタビュー



長野市ワールドフェスタ



郷土料理「ちょうまの会」

②環境学習に係わる学習



学校周辺地域の環境保全活動



Kids' ISO14000 への参加



環境標語受賞

③ボランティア活動



長野車いすマラソン



環境紙芝居



東北研修



地域親子英語で東北支援活動

④地球規模の諸問題解決方策に係わる学習



国際壁新聞



信州 ESD コンソーシアム成果発表



JICA SDGs 学習会



国際デー

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

- ・ 私たちが目指す世界 子どものための「持続可能な開発目標」
～2030年までの17のグローバル目標～
- ・ 環境紙芝居（環境省）
- ・ ESD QUEST
- ・ ユネスコスクール持続可能な開発のための教育（ESD）
- ・ 日本ユネスコ国内委員会
- ・ 文部科学省 ESD ポータルサイト
- ・ ESD 実践の手引
- ・ ユネスコスクール公式ウェブサイト
- ・ 今日よりいいアースへの学び

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

基本的には、「総合的な学習の時間」「生徒会活動」「部活動」を主軸に上記の「3. 活動内容」に記した(1)異文化理解プロジェクト (2)環境教育・ボランティア教育プロジェクト (3)地球規模の諸問題解決方策プロジェクトを柱に、教育活動を展開している。その際に「21世紀型能力」を育むため、アクティブ・ラーニングを通して、知識・技能の習得、自ら課題を発見しその解決に向けて探求し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力の育成、そして主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する姿勢を身に付けさせている。平成28年度から、東京大学 CoREF と連携し、アクティブ・ラーニングの手法の1つである「ジグソー法」の研究実践を進めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

学校の特質であるチームとしての力を生かし組織全体の総合力を高めるよう、個々人の知識や経験など「知の共有化」を図りながら、主体的に取り組む委員会、「国際理解教育委員会」を立ち上げた。タコツボからササラへ。各教職員の適切な役割分担と連携によりチームとして機能を発揮し、組織力を向上する簡潔で機能的な組織とすべく、ESD カレンダーを作成した。教職員の資質能力と意欲の向上の観点から、積極的に ESD 大会、信州 ESD コンソーシアムへの参加、諸研修に参加している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

実施した評価は、自己評価（本校の教職員が行う評価）と第三者評価（学校に直接かわりをもたない専門家が、自己評価及び学校関係者評価について専門的・客観的立場から行う評価）である。学校評議委員会（第三者評価）に年2回に渡り、本校3つのプロジェクトを高く評価頂いた。ただ、ユネスコスクールを広報するには、もっと具体的な方法を検討する必要があると指摘して頂いた。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

ホームページに、「アクティブ・ラーニング(ジグソー法)」「ESD 活動ブログ」「文化学園長野のグローバル教育」「ユネスコスクール活動」のコーナーを開設した。また、高校・中学それぞれの学校パンフレットに活動の様子を掲載した。高校年間6回、中学7回の学校説明会等で活動を説明した。本校生徒には、「BGN(文化学園長野)ユネスコニュース」を7回発行した。また、そのニュースも、すべてホームページ上で読めるようにした。また、活動の様子を地域新聞に取上げて頂いた。効果はこれからの期待している。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

『信州 ESD コンソーシアム』が平成 29 年 2 月 18 日に、「環境マインドも持った人材育成」を通して、ESD 活動を理解し積極的に取り組める人材の育成を行うため、信州大学教育学部により立ち上げられた。本校は同年 4 月 21 日に、ユネスコスクール加盟承認を受け、第 2 回目の「信州 ESD コンソーシアム 成果発表&交流会」(平成 30 年 2 月 3 日)に、中学 1 年生から高校 1 年生 10 名が、英語による年間活動報告を行い、高い評価を受けた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

福岡県大牟田市にて開催された『第 9 回ユネスコスクール全国大会・ESD 研究大会』に参加した。「我が国を最先端の持続可能な社会に—ESD のゴールを目指して」をテーマに、特別講演・分科会に参加し、情報交換会を行った。そこで、大牟田市教育委員長と結び、来年度以降の交流を約束した。また、夏季短期留学において、カナダノバスコシア州のユネスコスクール「ロックポート中高一貫校」を訪問。今後姉妹校提携を視野に交流を続けたい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

ユネスコスクールの様々な活動により、生徒たちは、多角的・総合的なものの見方、国際的な視野の広がり、コミュニケーション能力の向上、発信力の向上、リーダーシップの向上、プレゼンテーションスキルの向上によって、地域を見つめなおし、自分に誇りを持てるようになった。また、教員たちは、単に知識の伝達にとどまらず体験、体感を重視して、探求や実践を重視する参加型アプローチを研究するようになった。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

ユネスコスクール 2 年目に向けて、「ユネスコスクール ESD アシストプロジェクト」助成金申請を行った。「イングリッシュ・キャンプ」において、信州大学留学生及び ALT との共同生活の中で、国際理解、平和・人権教育、環境学習を通して、学際的な知識を深化させ、各生徒に関係する諸課題を探究し、そして他者に発信する力を育成する目的等を認められ、助成決定に至った。

基本的には、本年度の活動を土台にしながら、教員が教科・領域の枠を超えて学習内容を関連づけ、教科横断的に大きな学習の流れを可視化し、教え込みでなく、探究的・問題解決的に活動させる指導観を持てるように、また、体験的な活動やふれ合いの場を創るセンスやコミュニケーション能力を磨くため、ESD カレンダーの試行錯誤を重ねたい。ユネスコスクールはホールスクール。全職員で関わりながら、生徒にはリアルな持続不可能に出合わせ、ESD による今までになかった「新たな価値の創造」をすべく、持続可能な追究力とレジリエンスを育む活動を仕組みたい。